



編集・発行 邑楽町役場企画課  
〒370-0692 (住所記入不要)  
☎ 0276-88-5511 (代表)  
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)  
☎ 0276-89-0136  
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>  
E-mail [koho@town.ora.gunma.jp](mailto:koho@town.ora.gunma.jp)

邑楽町携帯サイト  
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。  
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第三十三回〉

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けしますー。

## あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

### 邑楽町の地名あれこれ①



かつては渡良瀬川の本流が流れていたといわれる矢場川(千原田付近)地域の姿をみると、河川の歴史からひもといていくのもおもしろい

#### 石打(いしうち)

今から五百三十年ほど昔、京都で起きた応仁の乱(一四六七)の頃、石打兵部少輔という武士の住居があったといわれます。

石打の名はこの武士の名前から生まれたのではないかと思われまふ。しかし、もつと古い古い時代からあった地名ではないかという説もあります。

この辺りは台地になっていて、縄文時代から人間が住んでいました。そこで、ここに住んでいた人たちによって石器作りが行われたのではないか、石打の地名はそこから出た、という人もおります。

#### 千原田(ちはらだ)

千原田は中野の小字名です。中野全域の鎮守である長良神社があります。千原田古塁跡があります。

古くは「ちやりだ」と称していたようです。ここは今でも矢場川の流れがくねくねしていますが、水が出ると川の砂や石が田んぼに押し出し砂利田になつてしまうので「じやりだ」と呼びましたが、いつの間にか、「じやりだ」が「ちやりだ」に変化したという説も

あります。

さて昔、八幡太郎義家が奥州征伐の時、義家の家来で千原田小太郎基房という武将がこの辺りで休憩したといひます。そのとき里人は好意をもつて千原田基房を接待したそうです。基房はたいへん喜んで出立しました。このよなことがあつて里人は、この偉い武将の姓にあやかつてこの場所を千原田と呼ぶようになったそうです。

のちに、新田義貞の忠臣、中野藤内左衛門の居城であつた中野城の出張りを守つたのが千原田小太郎でした。小太郎が築いた砦跡だといわれる通称「山ノ内」が、その古塁跡です。

今でも矢場川がここを取り巻くように流れていますから、大昔は自然の要害だつたのでしょう。矢場川を越すと昔の下野国、現在は栃木県足利市羽刈町です。矢場川は昔の謎を秘めて、今も静かに流れています。



千原田の長良神社に構える狛犬

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より

#### ひとりごと From editors

▶1月12日に行われた成人式では、新成人の実行委員の皆さんと一緒に式典に華を添えるためのアトラクションを行いました。内容は、八木節演奏と中学時代の先生がたからのビデオレターを上映。▶式典前日、実行委員さんと当時一緒に八木節をしていた新成人の皆さんが、出演団体であり当時所属していた高島子ども八木節隊の練習会場に行き、一緒に練習をしました。指導者の皆さんは当時と同じで、久しぶりの再会に感激と喜びで胸がいっぱいの様子でした。式典では、高島子ども八木節隊と新成人がコラボした八木節を披露することができ、すばらしい式典になりました。関係者の皆さん、本当にありがとうございました。(藤田)



帰る前にここで  
(ガバ沼)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)



この広報誌は、自然保護のため  
植物油インキを使用しています。